

バングラデシュ村落社会におけるコミュニティの動態

Dynamics of rural community in Bangladesh

社会環境学専攻地理学講座 D3

杉江あい

要約

本研究は、従来のムスリムを中心としたバングラデシュ村落社会に対する偏った理解を是正するため、マイノリティであるヒンドゥーや、ムスリムのカースト的集団への視点を組み込み、多様な構成主体とその相互作用から村落社会を捉えなおすことを目的とした。住民が共同的な活動を行う上で形成する集団や組織、また個人間の関係や相互行為から、バングラデシュ村落社会のコミュニティの同時代的な動態とともに、長期的な変化を明らかにすることにより、住民の社会生活において宗教やカーストが持つ意味とその変化について検討した。序章では、まず、バングラデシュの村落構成について概観し、地方行政制度および農村開発計画における村落社会単位の位置づけと、従来のバングラデシュ村落研究の動向をまとめた。次に、インドを対象とした研究を中心に、近年の南アジア社会論の動向を踏まえた上で、従来のバングラデシュ村落研究を批評し、本研究の目的と課題を明確にした。本研究の主要な対象地域である B 村と G 村の概要を述べ、研究方法を提示した。第 1 章では、B 村のヒンドゥーに焦点を当て、20 世紀初頭以降の国家および村落社会の政治構造や人口構成の変化に伴い、宗教およびカースト間の社会的／物理的距離や権力関係がいかに変化したのか、また、そのなかでヒンドゥーの間の紛争解決や宗教的活動が、いかなる主体によって、どのような村落社会単位や関係を基盤として行われてきたのかを明らかにした。第 2 章では、B 村とその周辺村におけるヒンドゥー人口の流出とムスリム人口の流入に伴い、ムスリムとムスリムのカースト的集団の間で、宗教的活動を担う組織がどのように形成されてきたのかを明らかにした。第 3 章では、B 村とその隣接村のムスリムのカースト的集団に焦点を当て、その通婚、居住および移住パターンの持つ空間性、職業やタイトル、また宗教的な実践を明らかにすることにより、その集団に対する序列づけや差異化がいかに持続、あるいは変化してきたのかを考察した。第 4 章では、G 村の 20 世紀初頭以降の変化をたどった上で、G 村と B 村において宗教やカーストを越えてなされる共同的、組織的な活動の実態を明らかにした。また、G 村と B 村の住民の間で、互助や富の分配がいかなる村落社会単位や関係に基づいてなされているのかを検討した。終章では、各章で明らかになったことから、バングラデシュ村落社会のコミュニティの長期的な変化と同時代的な動態をまとめ、住民の社会生活における宗教やカーストの持つ意味を考察し、それが南アジアやより広い世界的な動向とバングラデシュの歴史的、地域的コンテクストにおいて、いかに捉えられるのかを論じた。